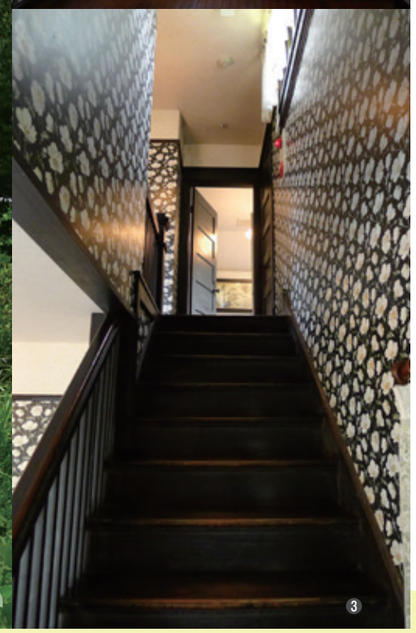
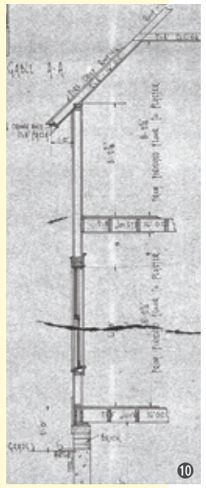


❶移築された十石河川公園内の旧古田土邸。❷食堂部分。❸階段見上げ。❹居間の片隅に置かれた階段。❺格子状スクリーンのポーチ。❻2階のバス・トイレ。

❶❶棟上げ時の写真。❶❷古田土の作品。陶磁器の絵付けの試作の下絵か。

DETAIL



❼地下のボイラー等の諸設備。❽地下にあった石油ストーブ。デトロイトでつくられたものか。❾階床の根太板とその転び止め。❿断面図の一部。垂木・縦枠は2×4材、床根太は2×8材使用との記載がある。断面図提供／茂木町教育委員会

竣工年／1924（大正13）年
所在地／栃木県
販売元／シアーズ・ローバック社

歴史的ツーバイフォー建築物を訪ねて
―明治～昭和初期―

第8回　旧古田土雅堂邸

関東大震災直後に建てられたアメリカ製組立住宅

内田青蔵（神奈川大学建築学部特任教授）

画家・古田土雅堂

栃木県立美術館には、1923（大正12）年制作の「地下鉄の雑踏」という油彩画が所蔵されている。作者は、古田土雅堂（こだとがどう）。「ニューヨークで活動した画家の未来派を思わせる作品」と紹介されている。日本では1920（大正9）年に東京地下鉄道株式会社ができ、1927（昭和2）年に初めて上野・浅草間の地下鉄が開通した。この絵が描かれた時期には、日本ではまだ地下鉄は存在せず、いち早くニューヨークで体験した日本にもいずれ訪れる近未来の生活を描いたものといえる。

作者の古田土は、1880（明治13）年、現在の栃木県芳賀郡茂木町で生まれ、東京美術学校（現・東京芸術大学）日本画科卒業後の1906（明治39）年、渡米しシカゴで働きながら絵を学び、翌年ニューヨークの森村ブラザーズに勤めた。この森村ブラザーズとは、1876（明治9）年に弟とともに森村財閥を創設した森村市左衛門が1878（明治11）年にニューヨークで骨董品や陶器などの販売を目的に創設した会社で、その後、小売業から卸売業へと転換し、アメリカに日本の陶磁器を卸していた。その後、経営拡大を図り、1904（明治37）年には「ノリタケ」の名で一世を風靡した日本陶器合名会社を創設し、その商品を森村ブラザーズがアメリカで販売していたのである。

森村ブラザーズの事業が軌道に乗り、販売用の陶磁器の絵付けを行うデザイナーとして働いていた古田土は、安定した生活を送っていたが、子供の教育や関東大震災に遭遇した高齢の両親の心配もあって、1924（大正13）年に帰国を決し、退職した。

自邸持参の帰国

古田土は、帰国を伝える手紙を送り、ついては帰国後に住むための住まいを用意してほしいと依頼した。しかしながら、返事の手紙では、震災直後で、地元では建築部材はもとより建設費も高騰し、職人たちを集めての住宅づくりは難しいということだった。そこで、古田土は、帰国にあたっての新しい住まいを持参することを考えたのである。

当時のアメリカでは、広い国土を対象にした事業として通信販売事業が展開されていた。その代表が、シカゴを本店とするシアーズ・ローバック社だった。1886（明治19）年に腕時計の通信販売を目的に創設された「R.W.シアーズ時計会社」は、1893（明治26）年にはシアーズ・ローバック社となり、500ページを超えるカタログをもとに衣服から家具調度品などの商品を扱い、1908（明治41）年からは自社ブランドの自動車とともに住宅の販売を行っていたのである。

古田土は、1923（大正12）年版のシアーズ・ローバック社カタログから「HATHAWAY」と名付けられた組立住宅を購入し、帰国時に合わせて輸送した。

レモン色の屋根がまぶしいツーバイフォー工法の住宅

茂木町の「道の駅もてぎ」に附設する十石河川公園に行くと、レモン色の急勾配屋根がまぶしい洋館が見える。旧古田土雅堂邸である。かつては、宇都宮市下戸祭に建てられたが、保存のため現在地に移築されたのである。

木造2階建て地下室付きの建物で、独特の格子状のスクリーンのポーチからドアを開けると、直接居間となる典型的なアメリカ式住宅だ。カタログでは、「SIX ROOMS BATH AND PORCH」とあり、居間の奥は、食堂と台所。居間の階段を上がると小さなホールを囲んで3つの寝室とバス・トイレがある。地下は暖房用のボイラー室で、全体にはスチーム暖房が設置されている。現在、地下部分は、シアーズ・ローバック社のカタログの仕様にあるようにコンクリートが用いられているが、創建時は大谷石が使われていたという。

地下室に露出している1階床部分の根太が板根太で、その間には板根太の転び止めが見られるように木構造の基本部分は、板材を用いたツーバイフォー工法である。また、当時の上棟式の写真を見ると1・2階の壁部分を長尺の枠材を用いて一体的に造り上げるバルーン・フレーム構造であることがうかがえる。なお、建物がツーバイフォー工法であることは、一部保管されている図面からも確認できる。いずれにせよ、100年前に海を渡ってきた住宅が栃木県茂木町指定文化財として保存され、その空間を追体験できるのはうれしい限りである。

［参考文献］
青山栄昭、岡田義治、小西敏正「旧古田土雅堂邸に関する研究―大正末期に米国から輸入した通信販売の組立住宅―」日本建築学会計画系論文集 第549号　2001年11月
内田青蔵、大和ハウス工業総合技術研究所「アメリカから持ち込まれた住宅―旧古田土雅堂邸―」『週刊新潮』2018年12月13日

本施設は見学が可能です。土日祝10:00～16:00開館（休館の場合あり）
問い合わせ先：ふみの森もてぎ　TEL 0285-64-1023